



校訓「進歩(文)」「健康(武)」「協力(道)」

3年総合発表会

3年生から2年生に伝える



3年生の想いを



2年生が受け止めて



沢山のことを学びました

12月19日(火)の6校時、3年生の「総合的な学習の時間発表会」が行われました。この発表会は、3年生が「私らしく生きる」というテーマで職業や高校について調べて、進路選択や自己の生き方についても触れながら2年生に向かって発表を行うものです。当日は3年棟・2年棟を使い、4会場に分かれてそれぞれ発表や質疑応答を行いました。

3年生は各々「私の未来予想図2017」という14歳から80歳までの「人生設計」を基に、将来就きたい職業とその実現のためにどんな高校を選択し、そこでどう努力していくか発表してくれました。自分の夢を語ることに誰もが「恥ずかしさ」や「抵抗感」はあったと思いますが、自分の言葉で自分の生き方について堂々と語れる3年生は立派だと思いました。

また、「人生設計」というとほとんどの生徒が順風満帆なものを描きますが、中には自分の望んだ職業に就いたけれど大きな失敗をしてしまい、そこからどう立ち直っていくかというところまで発表してくれた子どももいて大変感心しました。この発表に対して、人生は思い通りにいかないこともあるけれど、大切なのは失敗を繰り返さないことだという2年生の感想も立派でした。

2年生にとっては「将来自分はどんな視点をもって職業を選択するのか。」「そのためにどんな高校に進学したらよいか。」「自分の個性や能力を生かしながら、どんな生き方をしたらいいのか。」など、1年後の高校入試の面接にも生かすことのできる発表を聞くことができました。何より、自己の「生き方」を見つめるよい機会となったことだと思います。

この発表会で目にした3年生の姿から、2年生はこれからの自分がどうあるべきか、しっかりと学んで欲しいと思います。

学校のお宝の一つは 池田修三の版画です



「みどりこ」 1986年



「あかいとり」 1986年

先日、由利本荘市の郷土資料館から「学校のお宝調査」の依頼がありました。これは歴史・文化・芸能・自然・科学の分野で各学校にある貴重な作品や資料を調べ、これを基に学校に関係した品々を集め展示会ができたというねらいで行われた調査です。

勿論、由利中学校にも沢山のお宝があるのですが、その中の一つに「池田修三」の版画作品があげられます。

池田修三の版画は最近由利高原鉄道の車両に女の子の絵がラッピングされ

ているのでご存じの方も多いいと思います。

池田修三は大正11年に、象潟町（現にかほ市）に生まれ、由利高校、聖霊高校で美術教師として勤務し、その後退職して上京し、木版画に専念します。主なテーマはこどもたちの情景で、晩年は風景画も手がけました。国内の版画展で入賞した他、

海外の版画展にも数多く出展し好評を得ています。

ふるさとの象潟をこよなく愛し、「広報きさかた」の表紙や新庁舎落成など、事あるごとに多くの作品を提供し、平成元年には「象潟町功労者」として表彰されています。最近では秋田のフリーマガジン「のんびり」で池田修三を特集したことがきっかけで、没後再評価され、再び脚光を浴びた「奇跡の画家」とも呼ばれています。

また、池田修三はより多くの人に作品を届けたいという強い思いをもち、専門の版画の「摺り師」でも難しいと言われる「多色摺り」を含め、制作の全行程を自分自身で行っていました。色を出すのが難しい「多色摺り」で、何十色という色を表現しており、木版での創作版画としても大変希少な作品と言えます。

本校にある池田修三の作品は「新校舎竣工記念」として「由利中同窓会」から頂いたものです。ランチルーム南側の壁面には「土日」「あかいとり」「ガーベラ」のプリントものの3作品が展示されていますのでご覧になった方も多いいと思います。今回校舎の中を調べてみると、「リラックスルーム」に眠っていた作品を見付けました。それが左記の「みどりこ」という作品です。これは本校では唯一の「オリジナルプリント」であり、大変評価の高い作品だといえます。そこで今後の保存状態を鑑みて、早速校長室に飾り直しました。

また、ランチルームには池田修三の作品の他に、大変大きな油絵2点も展示されています。当時中学生であった猪股真由子先生に尋ねると、当時からランチルームにはこの絵画が飾られていたということでした。これらの2作品についても一度調べてみました。名前の文字から推察すると、おそらくロシアとポーランドあたりの作家ではないかというところまでは分かったのですが、そこから先に進むことができませんでした。頂いた当時の資料も見付からず困っておりますので、もし、保護者の皆様や地域の方で、この2点の油絵の由来などについてご存じの方がおりましたら、お知らせ頂ければ幸いです。

このように何気なく校舎の中に飾られているものには由利中学校同窓会からの寄贈が多く、地域の皆さんの本校に対する想いの強さが伝わってきます。

由利中生が地域にとって、本当の「お宝」であることを改めて強く感じています。

